

## 2020年度事業 中間評価報告書（実行団体）

提出日: 2022年〇月〇日

事業名: 平成30年7月豪雨災害からの復興に向けた被災者再建と地域食堂が連携した居場所づくり支援プロジェクト

資金分配団体: 一般社団法人RCF

実行団体: 特定非営利活動法人宇和島NPOセンター

### 評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部		代表理事	特定非営利活動法人宇和島NPOセンター代表理事
外部		室長	愛媛県宇和島市 総務企画部 市長公室 室長兼復興調整班長
外部		副班長	愛媛県宇和島市 総務企画部 市長公室 復興調整班副班長
外部		担当係長	愛媛県宇和島市 市長公室 現地支援班 担当係長

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ①短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
「宇和島市旧市内・吉田町・三間町」の三拠点における被災者	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談件数</li> <li>拠点を活用する住民数</li> </ul>	日常の交流の中から住民の声を拾い、解決に結び付けることができる状態	2023年2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>吉田地区の相談件数は196件で、拠点を活用している住民は684人。ほとんどの相談が解決済で、高齢者や被災者が相談しやすい環境になっている。</li> <li>三間地区の相談件数は47件</li> <li>旧宇和島の相談件数は56件</li> </ul>

<p>「宇和島市旧市内・吉田町・三間町」の三拠点における被災者</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントの実施件数</li> <li>・参加リピーター件数</li> <li>・パッケージプラン数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パッケージプランができ、実施している状態</li> <li>・3拠点で月1回以上のイベントが継続的に実施されている</li> </ul>	<p>2023年2月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント実施件数27件、リピーター件数100件、パッケージプラン24件</li> <li>・三間以外の地区では毎月1回以上パッケージプランを開催している状態。他団体と連携イベントも毎月地域食堂で連携し開催。茶話会では2カ月に1度は連携してできている状態。(パッケージ一覧)</li> <li>防災ゲーム8件、ボードゲーム7件、川清掃2件、九島おでかけサロン1件、スマホ講座2件、防災グッズ講座2件、リース作り、ミュージックケア、きらきら漢字アート、座ってできるヨガ、認知症防止講座コグニ体操、新聞紙バッグ作り</li> </ul>
<p>宇和島地域で活動する他団体</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多産隊との連携回数</li> <li>・新しく連携した団体数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他団体との連携イベントが実施できている</li> <li>・新しく連携を始めた団体が1つ以上ある</li> </ul>	<p>2023年2月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他団体との連携回数47件</li> <li>(連携先内訳)</li> <li>・過去に連携した団体との活動32件 うわじまグランマ9件、Clean the coast4件、災害NPO宇和島7.7 5件、大好き宇和島1件、もてころクラブ4件、ホリバタゲーム倶楽部2件、子ども食堂連絡協議会1件、日赤奉仕団2件、If4件</li> <li>・新規で連携した団体との活動15件 宇和島市PTA連合会、株式会社山善、アイリスオーヤマ、宇和島市広域事務組合消防本部、愛媛MEの会、子ども食堂連絡協議会、ERAT,モテナスキッチンカー、ひだまり工房、メッセージルームプラスワン(愛媛県視覚障害者協会)、もてころクラブ、大好き宇和島、日赤奉仕団、奥南母子愛育会、喜佐方女性部</li> </ul>
<p>地域内外のボランティア参加者</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアBANKの仕組みができているか</li> <li>・ボランティアの登録数</li> <li>・ボランティアに来た人の人数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアBANKの登録者が100人以上いる</li> <li>・ボランティアBANKの仕組みができ、関係者が利用している</li> </ul>	<p>2023年2月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの登録数：50名(センター5名含む)+社協リスト約200名</li> <li>・ボランティアに来た人の数：約170人</li> <li>・ボランティアバンクの仕組みが完成し、海岸清掃などの一部のイベントで利用開始</li> </ul>

②アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」 (※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
<p>「宇和島市旧市内・吉田町・三間町」の三拠点が被災者にとって相談しやすい場となっている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉田地区の相談件数は196件で、拠点を活用している住民は684人。ほとんどの相談が解決済で、高齢者や被災者が相談しやすい環境になっている。</li> <li>・三間地区の相談件数は47件。聞き取り調査により、地域内にコミュニティが形成されていることを確認。地域内の課題は地域内で解決できる仕組みが形成されつつあるため、当センターが積極的に干渉しなくても良い状態。</li> <li>・旧宇和島の相談件数は56件。宇和海、宇和津、和霊、宇和海、住吉でお困り事調査から上がった相談事に対応。対応可能事案や、問い合わせ、連携できる団体へ調整中。</li> </ul>	<p>吉田地区では当団体の</p>
<p>人が集まれるパッケージができることにより、被災者と地域住民の交流ができています</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント実施件数27件、リピーター件数100件、パッケージプラン24件</li> <li>・三間以外の地区では毎月1回以上パッケージプランを開催している状態。他団体と連携イベントも毎月地域食堂で連携し開催。茶話会では2カ月に1度は連携してできている状態。 (パッケージ一覧)</li> <li>防災ゲーム8件、ボードゲーム7件、川清掃2件、九島おでかけサロン1件、スマホ講座2件、防災グッズ講座2件、リース作り、ミュージックケア、きらきら漢字アート、座ってできるヨーガ、認知症防止講座コグニ体操、新聞紙バッグ作り</li> </ul>	<p>地域課題との紐づけ</p>

<p>他団体も関わるができる体制を構築し、支援の動きが活性化している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他団体との連携回数47件</li> <li>(連携先内訳)</li> <li>・過去に連携した団体との活動32件 うわじまグランマ9件、Clean the coast4件、災害NPO宇和島7.7 5件、大好き宇和島1件、もてころクラブ4件、ホリバタゲーム倶楽部2件、子ども食堂連絡協議会1件、日赤奉仕団2件、If4件</li> <li>・新規で連携した団体との活動15件 宇和島市PTA連合会、株式会社山善、アイリスオーヤマ、宇和島市広域事務組合消防本部、愛媛MEの会、子ども食堂連絡協議会、ERAT,モテナスキッチンカー、ひだまり工房、メッセージルームプラスワン（愛媛県視覚障害者協会）、もてころクラブ、大好き宇和島、日赤奉仕団、奥南母子愛育会、喜佐方女性部</li> </ul>	<p>他団体との連携イベントは、主に食を通じた支援を行うことが多い。毎月の地域食堂や2か月ペースでの茶話会などが例として挙げられる。</p>
<p>ボランティアをキッカケに地域外の人がかかわる仕組み（ボランティアBANK）を作り、地域内外の人の還流を活性化させる関係人口の創出を目指す体制ができている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの登録数：50名（センター5名含む）+社協リスト約200名</li> <li>・ボランティアに来た人の数：約170人</li> <li>・ボランティアバンクの仕組みが完成し、海岸清掃などの一部のイベントで利用開始</li> </ul>	<p>現在ボランティアバンクの登録者数は目標値の半分に当たる50人。システム自体はほぼ完成している状態で、川清掃や海岸清掃のボランティア募集をバンクを通じて行っている。今後は登録者獲得のために、ボランティアバンクの認知度を高めるPR活動を積極的に行っていく。募集パンフレットを作成しており、完成次第、関係各所に設置してもらい、地域内に広く周知できる予定。</p>

事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>FALSE 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</li> <li>FALSE 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</li> <li>FALSE 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</li> <li>FALSE 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</li> <li>FALSE 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</li> </ul> <p>と自己評価する</p>	

**B) 事業の改善状況の評価**

**①事業の実施過程・事業改善に関する評価**

※評価項目・評価小項目は変更可

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	・事前評価以降、事業を取り巻く環境（政策、経済、社会など）の変化はないか		
	・意図した対象者に事業は届いているか		
	・当初設定された目標に対し、課題として想定されていた事項の解消に向けた活動の進捗は順調か		
実施をとおした活動の改善、知見の共有	・アウトプット発生に影響を与えた障害・貢献要因は何か		
	・事業の進捗において必要な実施事業の見直しが行われているか		
組織基盤強化・環境整備	・団体運営の基本規定や運用体制などを構築できているか		

**②短期アウトカムの状況の変化・改善に貢献した要因や事例**

- ・「食」支援は、参加する人たちで共通の話題が多く、被災者を問わず、高齢者から子どもまで集客がしやすく、話し合う場が提供しやすい。地域食堂を定期的実施している場所で、防災ゲームなどを合わせて実施することで話しやすい環境を作り、気軽に相談できるスペース(カフェ)を設置することで地域課題を聞き取ることができた。
- ・関係のあるNPO団体や自治会、行政、社協などの情報共有できる場での交流が、課題解決の一助となった。

**③事前評価時には想定していなかった評価**

--

**④事業計画の改善の必要性の確認**

FALSE	社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
FALSE	受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
FALSE	事業計画に記載している活動は、アウトプット→アウトカムへのつながりが実際に確認できている
FALSE	残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるように計画されている
FALSE	短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている

事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために  FALSE 事業計画は適切に改善されたといえる FALSE 事業計画を適切に改善する見込みがある FALSE 事業計画の改善について、課題が残っている  と自己評価する	

**⑤中間評価結果を踏まえて今後注力したい、または早急に取り組みたい事項をお聞かせください。**

--

**添付資料** ※別途資料を作成している場合は提出  
活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3~4枚程度）